



認知症の“ころ” 前編

医師 大神 博央

今回は認知症の方の“ころ”の変化についてお話します。認知症と一言に言っても、その代表的なアルツハイマー型認知症だけではなく、血管性認知症やレビー小体型認知症などさまざまな認知症がありますので、ここではアルツハイマー型認知症の一つの“ころ”の変化についてお話を作ってみることにします。あくまでも創作であり、必ずしも現実を反映しているとは限りません。

5年前に急に夫を亡くし、一人暮らしが長くなってからは、生きる張り合いをなくしつつあった。唯一の趣味だった詩吟の会にも足を運ばなくなった。「生きている充実感」について考えることにも鈍麻し、時間の流れに身を任せている日々であった。最近物忘れがあることには何となく気づいていたが、次第にその感覚もなくなっていった。化粧もほとんどしなくなった。出かけないので入浴は必要ないと思うようになった。食事は同じようなものばかりであった。時にどうしようもない寂しさや、漠とした不安に襲われることがあった。それは名状しがたいもので、それがなんなのか分からなかった。

1年ぶりの帰省だった。あれほど綺麗好きだった母だが、使った食器は台所に放置され、冷蔵庫の中に賞味期限切れの食品が散乱していた。庭に咲く桜が自慢で、その美しさを俳句にしたためていたが、満開の桜にも一瞥もしなくなっていた。いつかはその時が来るとは思っていた。が、その“時”を目の当たりにした今、満開の桜の木々が、いつか見た荒涼としたローマの遺跡のように感じられた。東京の自宅を引き払い、母と同居することを心に誓った。

娘が同居してくれることは嬉しかった。しかし次第に食事や片づけ、入浴、洗面にまで口を出す娘の言葉に棘を感じるようになった。「洗い物は私がします」「洗濯物はたたまないで」等。なぜこの子は私がやることに逐一口をだすのだろうか。当初は戸惑い、気分が落ち込むことが多かったが、次第にそのような娘の態度を訝しみ、怒り、反射的に攻撃するようになっていった。

同居すると、想像していた以上に生活自体が荒んでいることに驚いた。促さなければ着替えや入浴もしていない。理解はしていたつもりだった。しかし「どうして母がこんなことになったのだ」という嘆き、悲しみもまだ消化できず、また洗面さえもままならない母の世話を翻弄され、いつの間にか命令口調で母に指示を出すようになっていった。そんな自分の気持ちを踏みにじるように、母は次第に大声で不満を言うようになった。いつも不安げで猜疑的になっている感じがした。

名状しがたい不安、記憶と感情の混乱、その渦中にありながらそれらにも鈍麻し、茫洋とした時間の海に飲み込まれていく自分の状態を客観化し理解する能力は既になく、まるで蟻地獄に落ちていくかのような恐怖感で支配されていた。そんな時事件は起きた。私が隠していたはずの財布がない。私は間違いなく隠していた。娘が盗んだに違いない。

「あんたが私の通帳や服を盗んだやろ。」

まさに晴天の霹靂だった。いったい母はなにを言っているのだ。衣類はなんのために盗むのかと本人に問い詰めても「あんたしかおらん」と逆に興奮して罵るため取り付く島がない。時にやりきれなくなり、「私のことが信用できないの！」と怒鳴ることもあるが倍返しで怒る。さまざまなエピソードはすぐに

生活と住環境

精神保健福祉士 宮本 秀和

性格形成に住環境も影響すると言われていています。横浜市の保健所が高層住宅の多い地域で調査をしたところ、4階建て以上の建物に住む子供の自立心の発達が遅れやすいという調査結果が出ました。転落事故を心配したり、外出にもエレベーターが必要なため室内で過ごすことが多くなります。母親と過ごす時間が多くなるため母子分離が遅れ、依存心の強い性格になる傾向がみられました。男女比では女の子より男の子の方が多いようです。

また社交性についても学生寮で調査したところ、誰とも接触せず部屋に入ることが出来る構造の寮では社交性が低い結果となり、ロビーを中心に部屋がある寮では頻繁に他者と顔を合わせるため社交性が高い結果になりました。

待合室の長いソファで1人サクラを準備し何処に座るか試してみても、他者と顔を合わせなくて済む住人はサクラから遠い所に座り、逆に頻繁に他者と顔を合わせる住人はサクラのすぐ横に座ったそうです。

これらは家庭でもあてはまりそうなので、家で子供部屋等を造る際には、間取りなども重要になってきそうです。



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www.uenokoen-hospital.jp/>

E-mail

uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp



作業療法だより

今月は花見の様子を紹介します。今年は天候にも恵まれ、求来里の観音桜・亀山公園・いいちこ日田蒸留所に行って来ました。観音桜は高台にあり、正面にサッポロビール工場が見え、とても見晴らしの良い所でした。ピンクのかわいい満開の桜に多くのメジロ、その下には一面の菜の花畑が広がっており、皆さん春が

来たことを感じられていました。亀山公園も満開で多くの花見客で賑わっていました。子供たちが無邪気に遊び走り回る姿を見て、目を細められている方もおられました。いいちこ日田蒸留所、この日は汗ばむ陽気で日田の最高気温が全国一となった日でした。まず、立派な枝振りの枝垂桜を見て満開の桜のトンネルを歩きました。風が吹くと、はらはらと舞い散る花びらを見て「まあ！きれい。」と思わず声を出される方もおられました。普段、病棟ではあまり歩かれない方が額に薄っすらと汗をかき、最後まで車椅子に乗らずに歩かれました。その方の顔には季節の満喫感と達成感が見られました。

